

## 第7回家政学部賞 (2014)

### THE SEVENTH JAPAN WOMEN'S UNIVERSITY AWARD FOR CONTRIBUTION HUMAN SCIENCES AND DESIGN (2014)

所管：家政学部を考える会

日本女子大学家政学部「家政学部賞」は、私たちの生活をより合理的で豊かなものにするために、家庭生活や生活環境に関わる諸問題を自然科学的・人文科学的・社会科学的に探究し、人類の福祉に広く貢献する個人および団体の活動を奨励するものである。

#### 受賞

タマネギの催涙性研究グループ (ハウス食品グループ本社(株), ハウスウェルネスフーズ(株), 石川県立大学, 法政大学)

東京R不動産  
Waelaa Waaree

#### ＜タマネギの催涙性研究グループ

(ハウス食品グループ本社(株), ハウスウェルネスフーズ(株), 石川県立大学, 法政大学) ＞

#### 生活に密着した基礎科学の発展に対する貢献 に対して

タマネギを包丁で切ると涙が出ることは誰もが経験する。この涙を発生させる揮発成分を催涙成分 (lachrymatory-factor) と呼ぶが、この催涙成分は、タマネギ中の主要硫黄化合物 (PRENCSO) がアリイナーゼ (Alliinase) という酵素によって分解され、中間体となった後、自動的に生成すると信じられてきた。(すなわち、主要硫黄化合物がアリイナーゼでいったん分解されてしまった後では、催涙成分だけを抑制することはできないと考えられていた。) しかし今回の授賞対象者であるタマネギの催涙性研究グループ (ハウス食品グループ本社(株)：今井真介氏, 柘植信昭氏, 永留佳明氏, 澤田博氏, ハウスウェルネスフーズ(株)：朝武宗明氏, 石川県立大学：熊谷英彦氏, 法政大学：長田敏行氏) の研究により、催涙成分の生成には、これまで知られていなかった

新しい酵素が関与していることが発見され、この酵素を催涙成分合成酵素 (lachrymatory-factor synthase : LFS) と命名された。またこの発見により、LFS の発現や活性を抑えることができれば、切っても涙の出ないうえに、生理活性成分の量は多い、高付加価値のタマネギを作り出せる可能性があることも初めて明らかとなったことになる。

本研究成果により、同研究グループは昨年度イグノーベル賞を受賞されている。イグノーベル賞 (Ig Nobel Prize) とは、ノーベル賞のパロディーとして、「人々を笑わせ、そして考えさせる研究」として世界的に注目・評価される賞である。また本研究は自然科学に関する研究論文としては世界最高峰と評価される「nature」誌に受理・掲載されており、学術面から見ても極めて重要であると評価できる。

同研究グループが明らかにした新たな発見は、基礎科学上大変重要なものであると同時に、我々の毎日の生活に密接に関わる「食」に関する全く新たな発展・展開の鍵となるものとして大きく評価できる。

以上の理由により家政学部賞を授与する。

## ＜東京R不動産＞

**東京R不動産のインターネットサイトを通じて建築・不動産の新たな価値を発見し、情報発信する取り組みに対して**

建築・住居の品質について、よりよいものをつくることを設計者は常に意識しているが、それらの価値の発信はこれまで不動産会社を通じた、マーケティング重視の思考で発信されてきた。マンションなどでは豪華で都会的なライフスタイルと利便性の提案、多くの設備機器の設置等が情報の中心となり、間取りや立地、住環境の価値については、多くの消費者に受け入れられる一般性を重視した情報発信がなされている。それらにこだわることなく本事業は、立地・住環境・建築としての新たな価値を見だし、その土地に住むこと、働くことに対する新たな視点から建築物の価値を発見している。そして関心をもつ人々にユニークな形で情報発信するメディアとして活動を重ねてきた。それらの活動範囲・影響は東京にとどまらず、さまざまな地域へと広がっている。これらの先進性から、本事業がもつ新たな開拓者としての役割は大いに評価される。

また建築・デザイン・住宅などの多様な分野からアプローチし、建築・不動産・マーケティング等を包括的に取り扱うディレクターがプロジェクトを推進し、それぞれの業界の境界を超越している。こうした新たな形で提案する取り組みをする人々、新たな価値を発見し伝えるコミュニケーター、コーディネーターとしての専門家を生み出したことは、これまでに存在していなかった職域・職能を生み出している点でも評価される。

このように常に独創的な視点で不動産・住居の価値を発見し、新たな住まい方、賃貸住宅などが生まれることは、多様で豊かな住生活につながる。これらの点は、本学住居学科の常に生活者の視点から豊かな環境を創造しようとする家政学の理念にも合致している。

これらの点から、東京R不動産という情報発信メディアの先進性、組織としての働き方のオリジナリティ、専門家としての職能の創造などの面について高く評価する。

以上の理由により家政学部賞を授与する。

## ＜「Waelaa Waaree」(国際結婚をした外国籍とその子どもの生活支援団体)＞

**結婚や家庭、子どもにかんする問題を抱える在日外国人女性を支援する活動に対して**

主に在日外国人女性たちが活動する「Waelaa Waaree」は、国際結婚に起因するさまざまな問題の理解と解決のため、電話相談や同行支援、通訳などの活動を通じて、日本に暮らす外国出身の方やその家族、子どもたちを支援してきた。同団体は、女性や子どもたちの未来に優しい多文化共生社会の実現を団体の目的としている。とくに国籍の違いが原因ともなる家族、就労、女性への暴力、および子どもへの虐待などの問題に取り組んできた。

「Waelaa Waaree」で活動する外国人女性たちは、自治体や福祉分野の団体、法テラスなどと連携しつつ、電話相談や同行支援、通訳者として、困難を抱える外国人の女性やその子どもたちを支援してきた。「Waelaa Waaree」は、主に外国企業を含む企業からの寄付金、また公益法人からの事業委託によって運営される任意団体である。同団体が公益法人とならない理由は、「Waelaa Waaree」の活動内容やそのオフィスの所在などの情報公開が、外国人の女性や子どもたちの支援活動に支障が生じることを避けるためである。

「Waelaa Waaree」にはアカデミックな要素や先駆的といえる取り組みはないが、社会のなかで苦境におかれた外国人女性やその子供たちを、懸命に支援してきた活動は、本学家政学部賞を受ける資格が充分であると考えられる。

以上の理由により家政学部賞を授与する。